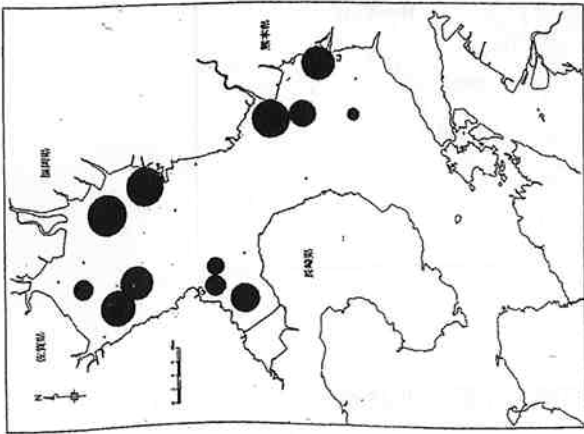
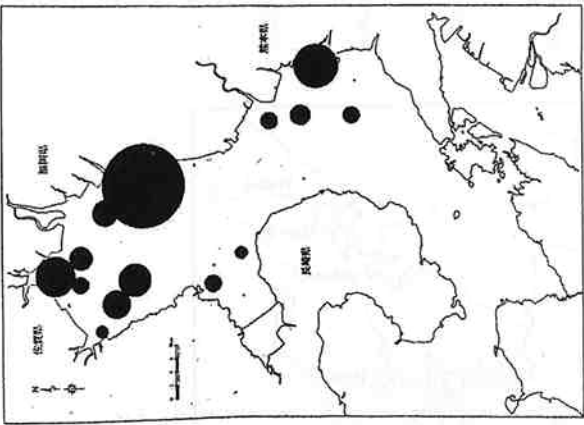


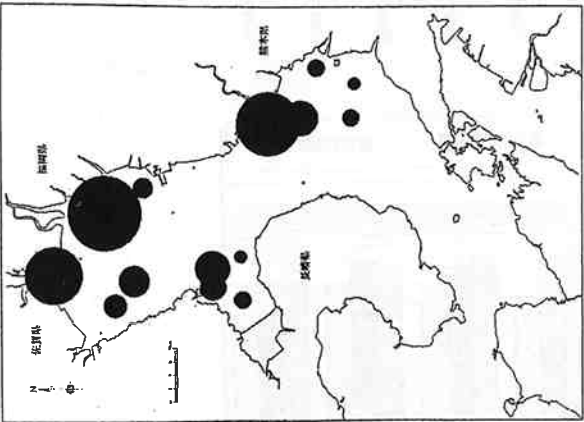
2002年5月



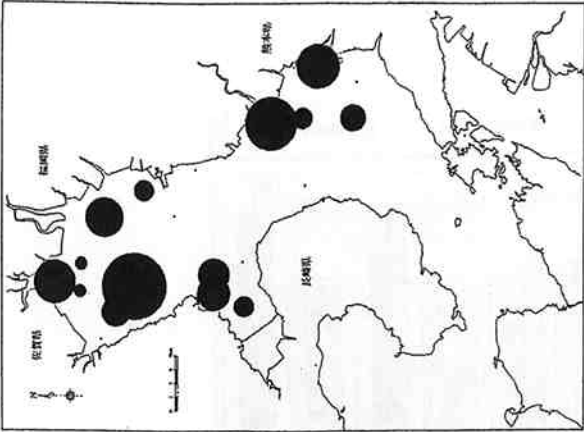
2002年8月



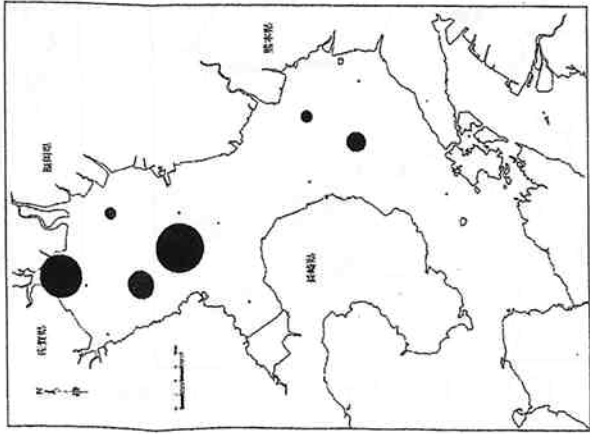
2002年11月



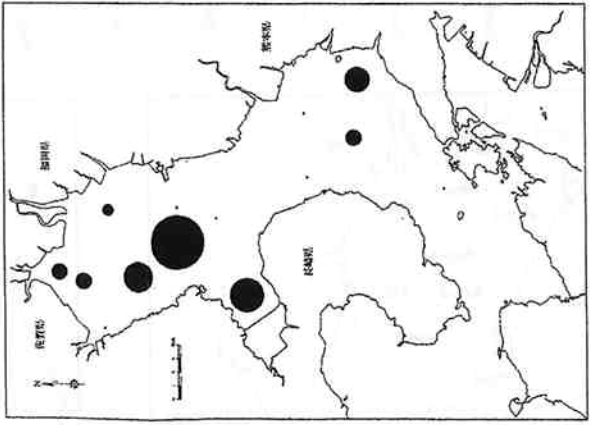
2003年1月



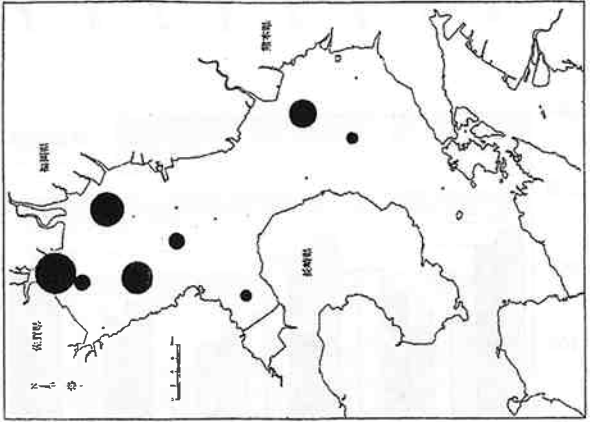
2003年5月



2003年8月



2003年11月



2004年2月

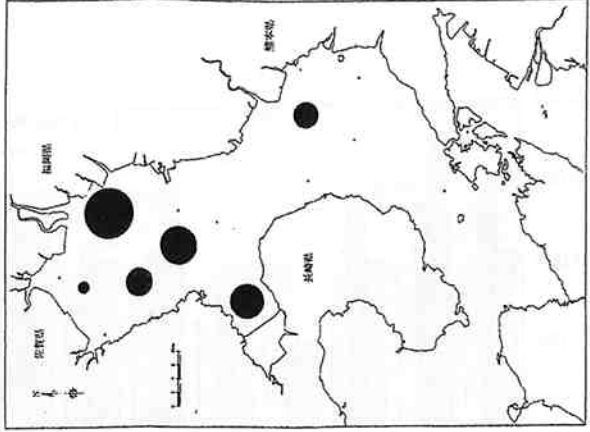


図 4.3.1(4) 指標種の出現状況 (*Paraprionospio* sp. (B型))

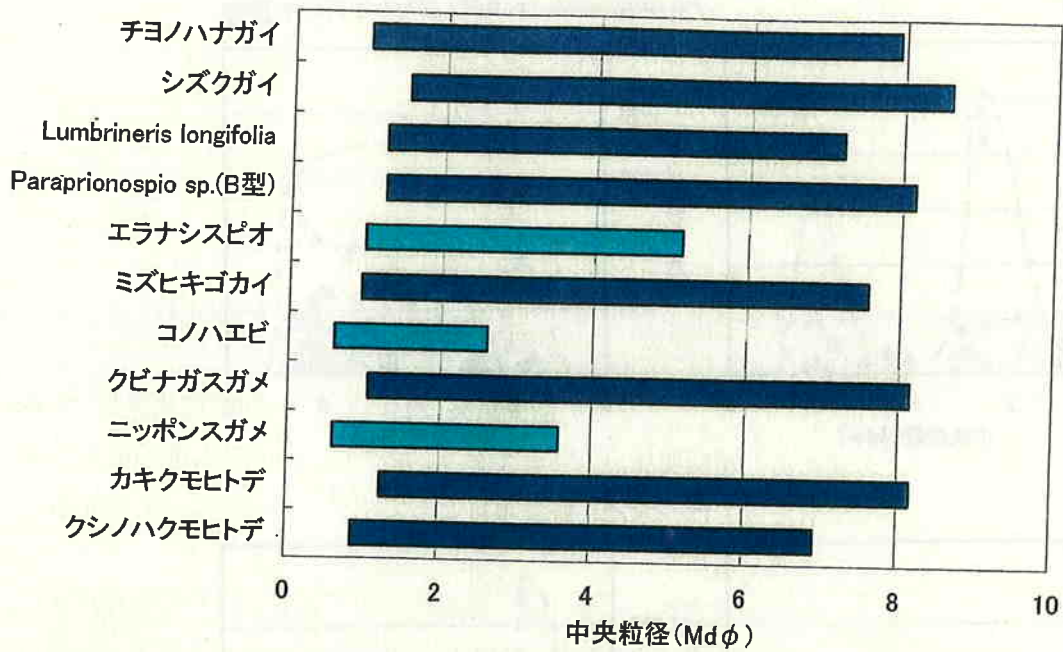


図 4.3.14 指標種の生息域における粒度組成 (Mdφ) 範囲

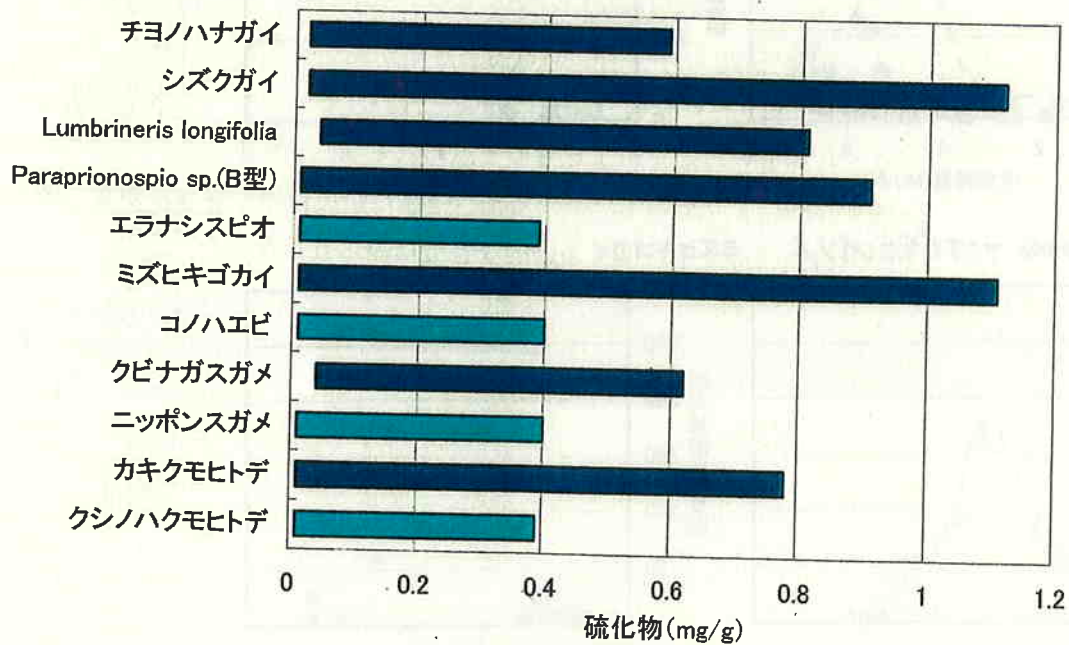
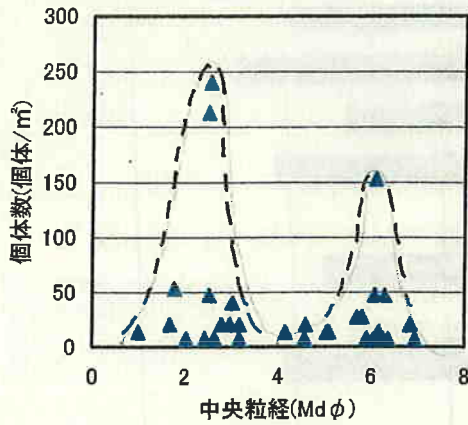


図 4.3.15 指標種の生息域における底質の硫化物濃度範囲

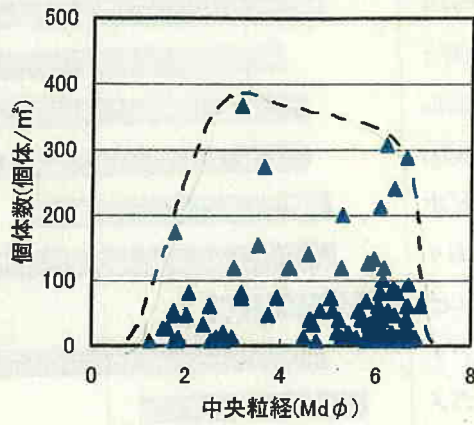
② 指標種

中央粒径 ($Md\phi$) と指標種の個体数の関係を図 4.3.13、指標種の生息域における中央粒径 ($Md\phi$) 範囲、硫化物濃度範囲を図 4.3.14、図 4.3.15に示す。

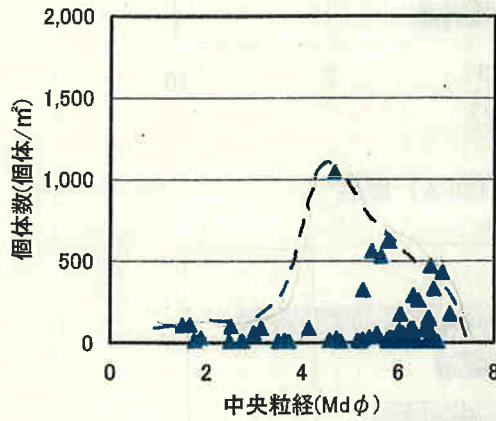
チヨノハナガイ



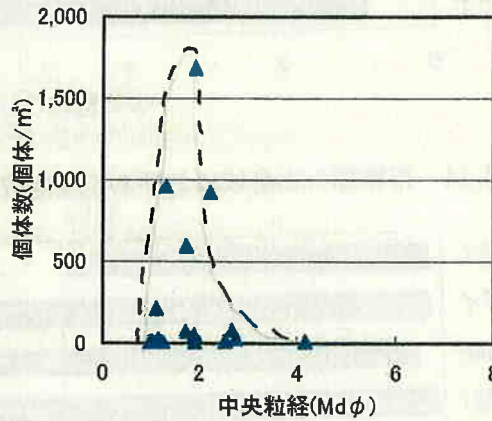
Paraprionospio sp.(B型) ヨツバナスピオB型



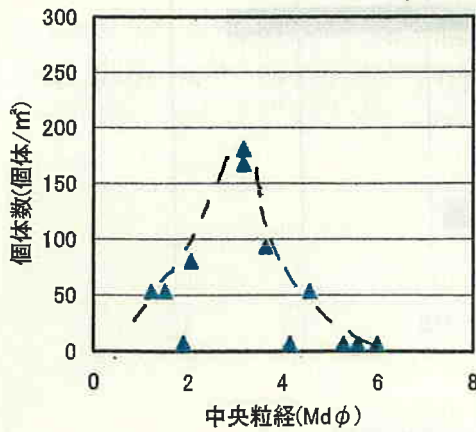
シズクガイ



エラナシスピオ



Lumbrineris longifolia マシガキボシソメ



ミズヒキゴカイ

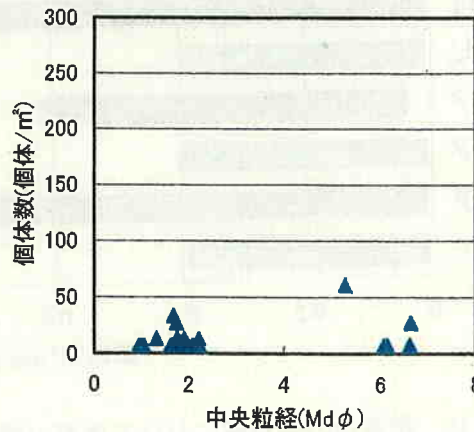


図 4.3.13(1) 中央粒径 ($Md\phi$) と指標種の個体数の関係